

死刑継続国と死刑廃止国の比較 ～イギリスと日本～ I.K<国①ゼミ>

1. はじめに

近年、死刑廃止の傾向が強まっている。死刑制度に対する意見は、「存続するか」「廃止するか」が明確に分かれているが、なぜこのように別れるのだろうか。現制度を続ける理由を軸に存続国の日本と廃止国のイギリスを比較する。

2. 仮説と調査方法

国連では人権を尊重するために死刑廃止を推進しており、世界的にも人権は重要視されている。したがって世界では死刑廃止の傾向が強まっていると考えられる。一方、日本では世論の影響が強いため存続していると考えられる。そこで日本と比べるために似た立法過程であり、死刑の影響の捉え方が違うイギリスを選ぶ。

どちらの国も世論に影響を与えるような事柄・世論・その世論の受け止め方を調べる。

3. 整理・分析

3.1 イギリスについて

3.1.1 過去の死刑にまつわる事件⁽¹⁾

イギリスには物議を醸した3件の死刑が行われた事件がある。1つ目はティモシー・エヴァンスの事件だ。この事件では裁判中の虚偽の自白の撤回を聞き入れてもらえなかったこと、処刑後に行われた調査では期間が短くエヴァンスの近親者が無罪を主張する機会がなかったことが問題点としてあげられる。2つ目はデレク・ベントレイの事件である。この事件ではベントレイが精神遅滞に近かったこと、逮捕後に行われた殺人によって死刑が確定したことが問題点としてあげられる。3つ目はルース・エリスの事件だ。この事件ではエリスは魅力的な女性で子供を持ち暴力を受けていたため世間の同情を多く集めたことが問題点としてあげられる。

3.1.2 世論⁽³⁾

死刑廃止後、1970年代に死刑を支持する保守党の政権が復帰した。特にテロ事件や評判の悪い殺人事件の後などには死刑再導入の試みが何度も行われた。そのうち1965年から1994年には13回この試みが行われたがその度に否決されてきた。以下は当時のipsosによる調査である。⁽²⁾

表1 ipsosによる死刑が正当化されるかについて筆者作成

	1977	1978	1979	1981	1989-1990
はい・時々	81%	77%	74%	78%	63%
いいえ・決して	17%	21%	23%	19%	33%
わからない	2%	2%	3%	3%	4%

この表から当時は死刑を支持している人が過半数を超えていることがわかる。

3.1.3 政府の考え

「人権と民主主義の促進は英国にとって優先事項である。」

これは2011年の外務・英連邦省の言葉である。これらのことから世論ではなく人権を重視していると考えられる。

3.2 日本について

3.2.1 過去の死刑にまつわる事件

日本には飯塚事件・免田事件等の死刑判決が確定した冤罪事件があるが、その事件の前後で世論の傾向に変化が見られなかったため割愛する。

3.2.2 世論

以下は令和元年と昭和31年に行われた死刑廃止に賛成かどうかを尋ねた世論調査である。(上:令和元年 下:昭和31年)

表2 日本の死刑廃止の世論調査(筆者作成)⁽⁶⁾⁽⁷⁾

設問. 死刑制度に関して、このような意見がありますが、あなたはどちらの意見に賛成ですか。

わからない・一概には言えない	死刑は廃止すべきである	死刑もやむを得ない
10.2%	9.0%	80.8%

設問. 死刑制度に関して、このような意見がありますが、あなたはどちらの意見に賛成ですか。

わからない	(廃止に)賛成	(廃止に)反対
17%	18%	65%

この結果から死刑廃止に反対の人が多いことがわかる。また平成6年9月・平成11年9月・平成16年12月に実施した世論調査の結果では死刑は抑止効果を有するということを指示している人が過半数を超えている。

3.2.3 政府の考え⁽⁴⁾

死刑に関する世論調査の開始である昭和31年4月から、斎藤健・上川陽子・森まさこ等約26名が死刑廃止に関して国民感情や世論を踏まえて判断すべきと考えている。特に1989年の死刑廃止条約発効からは26名の内21人がこのように判断している。このことから法務大臣は死刑廃止では世論をふまえるべきだと考えていることがわかる。また死刑を廃止し凶悪犯罪の数が増加したとしてもそれが廃止が原因か他の要因が原因かがわからないため死刑による抑止効果の有無を証明することは不可能である。しかし国会では平成6年9月・平成11年9月・平成16年12月に実施した世論調査の結果から死刑は一定の抑止効果を有していると考えている。

4. 考察

イギリスの死刑廃止時と日本が死刑廃止している上での世論調査ではどちらの国も死刑を支持している人が少なからず存在していた。しかし日本は死刑を存続させ、イギリスは死刑を廃止させるというように立場が分かれていった。このように分かれた理由としてイギリスでは過去にあった物議を醸した事件や冤罪事件の存在や人権を重視しているからだということがわかる。一方日本では世論調査の結果など国民感情を重視し影響を受けているからだということがわかる。

5. 終わりに

5.1 結論

イギリスでは死刑廃止前には事件に対する批判や同情など世論の影響を受け廃止した。現在では死刑廃止当時や前後では死刑

を支持する世論が多く見られた。しかしそれにも関わらず人権を重視して死刑廃止を維持している。日本では世論調査の影響を大きく受け死刑を存続している。

5.2 今後の課題

イギリスでは冤罪に近い事件があり政府が人権を重視していた。また死刑廃止条約など世界的には死刑廃止の考えが広まっている。このような状況の中日本の死刑における人権の考えはどうなっているのだろうか。今後はこのことについて調べていきたい。

謝辞

この採Qを進めるにあたってご指導くださった安里先生、また平井先生に感謝申し上げます。

参考文献

- (1) Julian B. Knowles QC (2015)
「The Abolition of the Death Penalty in the United Kingdom」
(2) ipsos (2008)
「Support for the Death Penalty 1977-2009」
(<https://www.ipsos.com/en-uk/support-death-penalty-1977-2009>)
(3) Foreign & Commonwealth Office
「HMG Strategy for Abolition of the Death Penalty 2010-2015」
(4) 近畿弁護士連合会 (2022)
「日本の死刑制度はどうなっているのか？」
(5) 内閣衆質一六九第四九号 平成二十年二月十二日
(6) 内閣府(2020年度)
「令和元年度基本的法制度に関する世論調査」
(<https://survey.gov-online.go.jp/r01/r01-houseido/3-chosahyo.html>)
(7) 内閣府(1956年度)
「昭和31年 死刑問題に関する世論調査」
(<https://survey.gov-online.go.jp/s31/S31-04-31-01.html>)